

2026年度 A日程試験 国語解答（国際学部・子ども学部）

() : 配点

問一	1	①(2)	2	③(2)	3	②(2)	4	④(2)
----	---	------	---	------	---	------	---	------

問二	5	④(2)	6	④(2)	7	①(2)	8	②(2)
----	---	------	---	------	---	------	---	------

問三	9	④(2)	問四	10	③(2)
----	---	------	----	----	------

問五	11	②(1)	12	③(1)	問六	13	④(2)
----	----	------	----	------	----	----	------

問七	14	②(2)
----	----	------

問八	甲	脳みそはストレスをなるべく避けるために自分の考えや行動を「正しい」と解釈しやすい（四十字） こと(2) 誰かと関わる時に、相手との相対的な立場を考える（二十三字） こと(2)
----	---	--

問九	15	①(2)	問十	16	③(3)
----	----	------	----	----	------

問十一	17	④(1)	18	②(2)	問十二	19	①(2)
-----	----	------	----	------	-----	----	------

問十三	20	③(2)	問十四	21	④(2)
-----	----	------	-----	----	------

問十五	乙	<p>(模範文)</p> <p>私は、これまで両親とよりよい関係性を結びながら暮らしてきた。しかし今振り返ると、思春期には、心境に微妙な変化が起き、両親の考えに違和感をもちながらも、波風立たぬよう日々を送ってきた気がする。</p> <p>両親は自分たちの育った時代の価値規範を示し強要することが多かった。幼い頃の私は「親の言うことは正しい」と、従順に行動した。しかし成長し、自分の考えを明確にもつにつれ納得できないことが増えた。例えば、両親の口癖「男は男らしく、女は女らしく」の意味することは、私には理解できない。時代により考え方は異なる。納得できないことは十分に意見を交換し解決へ導くべきだったと思える。</p> <p>この経験より私は、友達関係、集団作りにおいて、お互いの育った環境によって、それぞれの考え方は大きく異なるということを念頭に置き、本学の建学の精神に基づき、相手の立場に立ち心に寄り添って相手の思いを汲んだ上で、他者に役立つための努力をしたい。 (三百九十九字) (6)</p> <p>(評価の観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直した内容を挙げ友達との関係づくりに役立てることを書いているか ・本学の建学の精神を関連づけて具体例を挙げながら書いているか ・適切に段落を分けて、改行一字下げなどを含め適切な表記で書いているか
-----	---	---

2026年度 A日程試験 英語解答 (国際学部・子ども学部)

() : 配点

A	1	C(2)	2	D(2)	3	D(2)	4	B(2)	5	A(2)
---	---	------	---	------	---	------	---	------	---	------

B	6	C(2)	7	B(2)	8	D(2)	9	A(2)
---	---	------	---	------	---	------	---	------

C	10	A(1)	11	D(1)	12	C(1)	13	B(1)	14	C(1)
	15	B(1)	16	D(1)	17	C(1)				

D	18	B(1)	19	A(1)	20	B(1)	21	C(1)	22	D(1)
	23	A(1)								

E	24	B(1)	25	C(1)	26	D(1)	27	D(1)	28	C(1)
	29	B(1)								

F	30	D(1)	31	C(1)	32	A(1)	33	F(1)	34	G(1)
	35	B(1)	※30～35全て正解で1点加点							

G	How can we encourage tourists coming to Japan to visit lesser-known areas of the country?									
	We can encourage tourists to visit lesser-known areas of Japan by becoming an ambassador. We can learn foreign languages, becoming a bridge between Japan and foreign countries. We can serve as travel guides and use the power of media to share information through technology and media. (5)									